

氏名	二十軒 温美	(学籍番号 18DN04)	
学位の種類	博士(看護学)		
学位記番号	29号		
学位授与年月日	2023年3月9日		
論文題目	非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) 患者のヘルスリテラシーを活用したセルフケア支援モデルの作成		
論文審査担当者	委員長	酒井 昌子	教授
	委員	大石 ふみ子	教授
	委員	西川 浩昭	教授
	委員	新宮 尚人	教授
	委員	市江 和子	教授

論文要旨

I. 研究背景

わが国において、肥満を原因とし生活習慣病と関係する非アルコール性脂肪性肝疾患(以下, NAFLD)患者は増加傾向にある。インスリン抵抗性に関与し、高脂血症・高血圧・糖尿病の合併が考えられる NAFLD 患者のセルフケア継続は不可欠である。セルフケア支援にヘルスリテラシー(以下, HL)を取り入れ、外来看護における一貫した効果的な支援を行うことで、セルフケアの継続が期待できる。

II. 研究目的

- 第1研究: NAFLD 患者の普段の生活・健康管理, NAFLD の状況, HL やセルフケア能力について実態調査を行い, HL, セルフケア, セルフケア能力の関連を明らかにする。
- 第2研究: セルフケアの継続ができている NAFLD 患者の食事・運動療法を行う体験から, NAFLD 患者のセルフケアの継続に必要な要因や NAFLD 患者の HL を明らかにする。
- 第3研究: 1 と 2 の結果から得られた支援モデル素案の有用性の検討を行い, 「NAFLD 患者のヘルスリテラシーを活用したセルフケア支援モデル」を作成する。

III. 用語の定義

- NAFLD 患者: 肥満傾向にあり, 腹部超音波検査で脂肪肝を認め, アルコール性肝障害など他の肝疾患を除外した者とする。肥満傾向とは, 適正体重を超えたこととする。
- HL: 情報を入手し, 内容を理解し, 自分の病状に置き換え, 情報をもとに判断・解釈, 意思決定をし, セルフケアに向け活用できる能力とする。
- セルフケア: 健康上の問題を解決し安寧を得るため, 自分自身で自己管理, 日常生活活動や環境を調整する意図的な行動とする。
- セルフケア能力: 「健康のために選んでいること」「生活の中で続けること」「支援してくれる人をもつこと」をセルフケア能力とする。

IV. 研究方法

第1研究：NAFLD患者を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。第2研究：セルフケアの継続ができていないNAFLD患者に半構成的面接を行った。第3研究：支援モデルの素案について、NAFLDの可能性がある受診者のセルフケア支援に携わっている保健師に半構成的面接を行い、有用性の検討をした後、支援モデルを作成した。

V. 倫理的配慮

本研究(第1～第3研究)は、聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号21003, 21008, 21055)。

VI. 結果

第1研究：日常生活に支障のある疾患を合併せず、自立して社会生活を行っている年齢30歳～65歳未満のNAFLD患者204名が対象となった。有効回答率は、16.2%であった。57名(27.9%)のNAFLD患者が一般的な肥満(BMI \geq 25)ではなかった。45名(22.4%)が服薬治療の必要な合併症がなく受診していた。受診への負担感があるのは71名(37.0%)、食事・運動指導を受けたことがあるのは83名(41.1%)であった。HLは、学歴・就業の有無、BMI、食事・運動指導歴の有無による差が認められた。HLとセルフケアは弱い相関を有していた。第2研究：セルフケアの継続ができていない年齢30歳～65歳未満のNAFLD患者12名の対象者から「NAFLD患者のセルフケアの継続に必要な要因」を7カテゴリー、「NAFLD患者のHL」を6カテゴリー抽出した。第3研究：予防医学協会の健診施設(産業保健・地域保健)2か所でそれぞれ勤務する保健師5名の対象者の面接内容から支援モデルの素案「NAFLD患者のセルフケアの継続に必要な要因とNAFLD患者のHLの結果図」について有用性が得られ、検討した後に支援モデルを作成した。

VII. NAFLD患者のヘルスリテラシーを活用したセルフケア支援モデル

支援モデルは、“NAFLD患者へのセルフケア支援目標”の達成を目指し、“HLに焦点をあてたセルフケア支援”をNAFLD患者に提供することで、セルフケアの継続が期待できるものである。

“NAFLD患者へのセルフケア支援目標”は、「病状・治療の理解ができる、悪化への危機意識をもてる、セルフケアの必要性を意味づける、セルフケアの環境を整える、セルフケアの実施ができる、実施したことの評価・修正ができる、セルフケアを習慣化できる」である。“HLに焦点をあてたセルフケア支援”は、「セルフケアの認識をかえるための支援、自身の病状と情報を関連づける支援、自身のセルフケア内容を理解する支援、行動変容を意味づける支援、医療者を含めた周囲とセルフケアを協働する支援、個別性にあった具体的なセルフケアの方法を支援、自身で判断・見極めができる支援、セルフケアの状況や手応えを分かち合える支援」である。

VIII. 考察

NAFLD患者は、食事・運動療法を生活に取り入れる必要性を感じているが実施・継続に至らない傾向があり、セルフケアをすることにHLを活かすことは少ないと考えられる。セルフケア支援にHLを取り入れ、周囲との協働を行いながら、情報からセルフケアを意識づけ、理解、評価、活用する支援過程が効果的であると考えられる。支援する外来看護師が、支援モデルを活用することによって、一貫した効率的・効果的なセルフケア支援が提供できると示唆される。

IX. 結論

NAFLD 患者への支援モデルは、外来看護師が“HL に焦点をあてたセルフケア支援”を行い、“NAFLD 患者へのセルフケア支援目標”を達成できることを期待するものである。HL を支援し、情報収集、理解、評価・活用からセルフケアの継続を目指した支援モデルを作成することにより効率的・効果的な支援につながると示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究の目的は、本研究は、疾病予防や健康管理に効果があるとされる HL に着目し、NAFLD 患者の生活・健康管理、NAFLD の状態、セルフケアとセルフケア能力と HL との関連を明らかにし、セルフケアの継続ができていない NAFLD 患者のセルフケアや HL を活かしたセルフケアの体験ならびに NAFLD 患者の保健指導する保健師の体験から、セルフケアの継続のための支援モデルを作成することである。

長年の生活習慣の影響から発症する NAFLD 患者のセルフケアの確立は困難と指摘されているが、その実態は明らかでない。第 1 研究の NAFLD 患者のセルフケアの実態調査からヘルスケアと HL が弱い相関と、セルフケアに関する知識がある結果から、HL に着目したセルフケア支援の有効性が認められたことは、セルフケアの実行や継続が課題のなかにおいて、新たなアプローチを示唆するものである。また、第 2, 3 研究においてセルフケアを継続している実際の患者と保健指導者の体験の質的分析から、セルフケア継続要因に HL の活用や HL の向上が抽出されたことも HL に着目したセルフケア支援の妥当性を確認するものである。これら実際の患者体験から抽出されたカテゴリーから支援モデルの素案を作成し、第 3 研究において、NAFLD の保健指導経験をもつ保健師のインタビューから得られた「HL を活用したセルフケアを継続するための効果的な支援」と概ね一致し、支援モデルの有用性が認められたことは高く評価できる。本研究の支援モデルは、NAFLD 患者に長期に支援する外来看護の看護介入において一貫した有効的なセルフケア支援モデルとしてセルフケアの継続を可能にし、疾患の悪化予防における実践的な意義ある支援モデルとして評価できる。

本研究は、慢性看護学領域の NAFLD 患者へのセルフケアならびに看護の質の向上に寄与する結果を示した学術的に高く評価できる論文である。審査において、量的調査の分析法の具体的記述、NAFLD 患者の支援モデルの具体的内容の論述を助言し、再提出された論文について審査委員全員が合格と判断した。

以上、結果から、審査委員全員は、本論文が博士（看護学）の学位を授与するに十分価値があるものと認めた。